

令和元年6月18日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01149

研究課題名（和文）博物館周辺施設の教育・学習支援機能に関する開発的研究

研究課題名（英文）A deplopmantal study on cultural instituions

研究代表者

鈴木 眞理（SUZUKI, Makoto）

青山学院大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：60114518

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：博物館と類似した機能を持つ文化施設・社会教育施設に関し、その展示機能を中心に調査研究を進めた。具体的には、青少年教育施設の展示機能に関する事例調査と調査票調査を行い、自然体験活動のみならず、各種の展示による教育機能を潜在的に所有していることを明らかにしたが、その活用について課題が存在することもまた明らかになった。

女性施設・文化施設についても事例調査を行い、また、博物館そのものについても美術館の教育機能について教育担当者の役割と力量形成に関する事例調査を行い、形成のプロセスに関して知見を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

博物館は、さまざまな事物を、収集、保存、調査、研究、展示、教育する機関としてとらえられているが、それらの機能は、博物館に限らず他の文化施設・社会教育施設においても、部分的には保有されている。この研究では、そのことに関して、特に青少年教育施設や女性施設を中心に事例調査を行い、それらの施設の機能発現の可能性を見出した。

また、そのための職員の役割とその力量形成プロセスについて、博物館に関する調査から明らかにしており、今後の望ましい施策の方向性を提起した。

研究成果の概要（英文）：Cultural instituions have functions similar to museums.Our research which analy-zed situations of 27 national youth centers clarified that they have many natural history speimens and cultural materials. But they do not use those resorces effectively for educational purposes.

研究分野：社会教育学

キーワード：博物館 社会教育 周辺施設 社会教育施設

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、「博物館周辺施設の教育・学習支援機能に関する開発的研究」というものであり、博物館のあり方をめぐる研究、博物館とは認知されない諸施設がもつ教育・学習支援機能に関する研究であって、制度的な枠組みの制約を外して、諸施設の機能に関して再検討・概念の再構成を検討しようとするものであった。

近年、博物館の整備が進む中で、むしろ博物館が高度に組織化され、資料そのものもつ意味を加工して行く傾向が目立つ中で、博物館とは認識されない施設において、その原初的ともいえる役割が果たされているのではないか、という認識からの研究である。

この研究は博物館の原初的な役割についての問題意識喚起に役立つ、またそのことを基礎にした諸施設の意味に関する研究関心を広げるための開発的研究として位置づけるものであろうと考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、上記の研究背景からも明らかとなり、博物館周辺施設という概念を、展示機能を持つ施設でノンフォーマルな教育という形態での教育活動を展開し、その活動は専任の学芸員・専門的職員という位置づけのない職員の活動であり、施設のミッションの中に教育が含まれている、複合的・多機能な施設、と位置づけ、その博物館周辺施設が、社会教育施設としてのノンフォーマルな教育の典型的な役割を担っていることを明らかにする。

文献調査によるこれまでの博物館教育の概念を確認しつつ、事例調査を重ねることによって、社会教育施設という観点からの展示機能の意味等についての究明を試み、社会教育施設における新たな教育の形態、ノンフォーマルな教育の新展開についての知見を得ようとするものである。

## 3. 研究の方法

研究の方法としては、すでに言及した文献調査によって、これまでの博物館教育、博物館、展示機能、ノンフォーマルな教育等の概念を明確化することを基礎的作業として位置づけ、事例調査によって、上述の教育等の実態を明らかにする。その際、関係者へのヒアリング、調査票調査を適宜取り入れ、多面的な探求を試みた。

## 4. 研究成果

本研究の研究成果は、いくつかに分節化できるが、基礎的な調査を除く、以下のような調査の成果を示すこととする。

「米国ボストン市における博物館周辺施設に関する調査」では、ボストン美術館、チルドレンズ・ミュージアムなどの傑出した博物館以外での「トレイル」におけるノンフォーマルな教育の実態についての情報を収集している。公園・教会・議事堂・集会所・墓地などが史跡として位置づけられ、その来歴を示す看板・掲示が設置され、「博物館」として整備されている。非営利団体によって「トレイル」は管理され、有料の解説ツアーや教育プログラムをもつなど、幅広い年齢層を対象とした事業を展開させたり、教材開発なども行っている。このような、民間非営利団体の活動が、狭い意味の博物館の枠を越えた「博物館教育」の有力な担い手として存在していることは、博物館活動の裾野の広さを示すものである。また、その活動が「観光」という行動と重なるものであり、教育の概念、ノンフォーマルな教育概念の検討に資する事例であると考えられる。

研究代表者が1983年に実施した文化施設に関する全国規模の事例調査の対象館の中で、現在でも活動を続けている「女性(教育)施設に関するノンフォーマルな教育の現況」の確認のための情報も収集したが、時間の経過が、施設の役割を変化させ、また、展示を含む教育の方法に関する変化は、著しいものがあつた。女性のキャリア開発・就労支援、子育て支援、各種相談事業などは、30 - 40年前とは比べものにならないほどの要求を背景に実施され、その方法も多様になり、学校教育以外の教育機関の教育方法の多様化の状況が確認でき、展示・図書資料の活用、情報誌の発行など、ノンフォーマルな教育の方法の展開が今後とも注目される。

博物館のエデュケーターに関する注目が高まっているなか、「日本の博物館教育草創期の担当者へのインタビュー調査」も、本研究の意味ある研究の一つである。彼らは、学校勤務の経験をもったり、博物館側から学校教員との連携に熱心であつたりという経歴を背景にしており、「教育」の意味に関する自覚と興味関心・熱意とが、今日の博物館教育への一般の関心を育むことになったと考えられる。学校教育と博物館教育との異同に関する認識と、両者の連携のあり方に関する認識、研究志向の学芸員像をどうとらえるかなど、今日、重要な論点になっている事柄は、博物館教育草創期にも意識され、先駆者として、手探りで活動して「エデュケーター」としての専門性を形成してきた軌跡を、インタビューから読み取ることが可能になっており、博物館における教育のありよう、その担当者に関する考察の基礎的なデータを獲得するこ

とができたと考えられる。

「青少年教育施設における展示利用に関する実態調査」は、国立青少年教育施設 27 施設に関して、郵送による質問紙調査として実施された。青少年教育施設には、その立地の条件・特徴に対応した、ジオラマ、剥製、実物資料、写真、絵画等が保有されていることが明らかになったが、必ずしも利用が効果的になされているわけではなく、いわば「宝の持ち腐れ」状態も垣間見られるということも、残念ながら明らかになっている。継続性の問題、担当職員の問題など、資料の有効利用の基礎的な条件の整備の必要性が課題になることが示されていると考えられる。

これらの調査等からは、ノンフォーマルな教育のさまざまな展開の可能性が示されているということと、脆弱性もまた内在するということが示されているということになる。その脆弱性を減少させること、ノンフォーマルな教育の条件が整備されるということは、フォーマルな形態の教育をめざすということにつながる発想なのであるが、そのことが、ノンフォーマルな教育の価値を減じてしまうことなしに可能なのかという、根本的な問いは、今後も続くことになる。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計 6 件)

- 馬場 祐次朗、社会教育主事の要請の在り方の見直しについて、日本生涯教育学会年報、査読有、第 39 号、2018 年、169-191
- 馬場 祐次朗、国立大学生涯学習系センターのこれからの役割、日本生涯教育学会年報、査読有、第 38 号、2017 年、39-53
- 内山 淳子、大学における社会人の学び直しの現状と課題、日本生涯教育学会年報、査読有、第 38 号、2017 年、21-37
- 大木 由以、1990 年代における美術館教育の展開、生涯学習・社会教育研究ジャーナル、査読有、第 10 号、2017 年、55-76
- 本庄 陽子、地域婦人会に関する一考察、青山学院大学教育学会紀要、査読無、61 巻、2016 年、17-24
- 大木 由以、イギリスにおける博物館教育担当者をめぐる考察、博物館学雑誌、査読有、42 巻、2016 年、1-18

### 〔学会発表〕(計 1 件)

- 大木 由以、周辺的存在としてのエデュケーター論、全日本博物館学会、2018 年

### 〔図書〕(計 13 件)

- 大木 由以、美術館教育における先駆的实践者の実態 - インタビュー調査の記録 -、青山学院大学教育人間科学部(社会教育計画研究会)、2018 年、78 頁
- 鈴木 眞理、青少年教育施設における展示利用に関する実態調査報告書、青山学院大学教育人間科学部(社会教育計画研究会)、2018 年、28 頁
- 鈴木 眞理、社会教育の概念、二訂生涯学習概論ハンドブック、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、2018 年、6 頁
- 馬場 祐次朗、社会教育行政の役割と組織、二訂生涯学習概論ハンドブック、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、2018 年、10 頁
- 鈴木 眞理、社会教育の制度と社会教育行政の論理、社会教育の公共性論、学文社、2016 年、25 頁
- 鈴木 眞理、社会教育の公共性を考える、社会教育の公共性論、学文社、2016 年、14 頁
- 鈴木 眞理、社会教育における学習者を考える視座、社会教育の学習論、学文社、2016 年、18 頁
- 本庄 陽子、社会教育におけるボランティア活動の支援、社会教育の学習論、学文社、2016 年、13 頁
- 内山 淳子、子ども・若者の学習と社会教育の役割、社会教育の学習論、学文社、2016 年、20 頁
- 内山 淳子、地域における学習活動の展開と継承、社会教育の学習論、学文社、2016 年、16 頁
- 本庄 陽子、社会教育と教員・親・地域、社会教育の連携論、学文社、2015 年、17 頁
- 大木 由以、教育機能に注目した博物館の役割、社会教育の施設、学文社、2015 年、17 頁
- 鈴木 眞理、教育の制度的特質と社会教育施設の位置、社会教育の施設、学文社、2015 年、24 頁

〔産業財産権〕

記載すべき事項なし

〔その他〕

記載すべき事項なし

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：馬場 祐次朗  
ローマ字氏名：BABA, yujiro  
所属研究機関名：徳島大学  
部局名：大学開放実践研究センター  
職名：教授  
研究者番号(8桁)：20446248

研究分担者氏名：本庄 陽子  
ローマ字氏名：HONJO, yoko  
所属研究機関名：清泉女子大学  
部局名：文学部  
職名：非常勤講師  
研究者番号(8桁)：90626615

研究分担者氏名：内山 淳子  
ローマ字氏名：UCHIYAMA, junko  
所属研究機関名：佛教大学  
部局名：教育学部  
職名：特任准教授  
研究者番号(8桁)：90648081

研究分担者氏名：大木 由以  
ローマ字氏名：OHKI, yui  
所属研究機関名：青山学院大学  
部局名：教育人間科学部  
職名：助教  
研究者番号(8桁)：20637128

### (2)研究協力者

記載すべき事項なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。